

A close-up photograph of several pink roses and scattered petals, all covered in glistening water droplets. The background is a plain, light color, making the vibrant pink of the flowers stand out. The text is overlaid on the upper portion of the image.

恋するキミの代弁者

～夫婦編～

キミイ

短くて優しいキス

手

私の一番

大きな愛

エンドレスラブ

朝一番

君が一番

人肌

君のいる景色

永遠を信じて

短くて優しいキス

いってきます

いってらっしゃい

ただいま

おかえり

毎日毎日繰り返される何気無いあいさつ

あなたはお決まりのように軽いキスをくれる

だけど大事なキスなのよ

だから忘れないでね

私はあなたのキスで家事をする気になるの

美味しい食事を作る気になるの

ベタベタしたいわけじゃない

だけどあなたの優しさが見えないと

やっぱり寂しくなる

不安になる

だからキスを忘れないで

短くて優しいキス

そして

おやすみのキスは

少しだけ甘く

手

僕の好きなこの手

白く細くしなやかな指

色とりどりの爪はまさに芸術だ

僕はこの手を取り見つめる

この手は僕の頬に触れる

髪に触れる

僕の身体を愛撫する

その指先からのぬくもりは

僕の心をとかす

つややかな肌はまだ傷一つなく美しい

どうかこのままずっとずっと

美しい手でいてくれ

何も触らないで

僕以外は触れないで

大丈夫 僕がこの手の代わりになろう

食事？僕が食べさせてあげる

もちろん作るのは僕

洗濯？僕がするよ

結構得意なんだ

この手は芸術だ

僕はずっと眺めていたい

君の手は美しい

僕の為に作る料理は最高だ

僕の為にアイロンをかけ

皺ひとつないシャツを着るのは心地よい

僕と君の愛の空間を磨き上げる君の手

その指先は忙しく動き続ける

冬には擦るとカサカサと音がする

力を入れると血管が浮く

良く見ると皮膚のしわが細かく見える

だけど僕はそんな君の手が好きだ

もう色鮮やかな爪はないけれど

僕色に染まった君の爪はどんな色よりも好きな色

君の手が僕の頬に触れる

僕の心は熱くなる

ありがとうの気持ちでいっぱいだ

僕は君の手を握る

君の手はあたたかい

そのぬくもりを永遠にと願う

僕はそんな君の手が愛おしい

そして世界一美しく見える





私の一番

顔を見れば出てくる不平不満

もうキライ

すっかり馴れ合った二人だから

遠慮はない

罵倒し取っ組み合いにだってなる

だけど

少し離れてみると

見えてくる

あなたが一番

一番大切だって

もうトキメキはないから

着飾る事もない

可愛くしなくたって

へっちら

何故かって？

だってあなたの愛は絶対に消えない

どんな私でも受け止めてくれる

不安のない揺るぎない愛に

私は心地良く浸かってる

時々飛び出して荒波に揉まれたくなるけど

やっぱりここが一番

あなたの側で

安らぎの中微睡んでいたい

私の一番は

やっぱりあなた

大きな愛

普段はまったく気づかないの

あれやこれや

日々の暮らしで

だけどね

ピンチになると

あなたの愛が見える

ふとした瞬間見せる優しさ

ああ私はこの大きな愛で

フワフワと浮いてるんだって

誰よりも何よりも

私の幸せ

私の笑顔

守ってくれる

あなたの大きな愛に

感謝します

エンドレスラブ

あなたの愛が見えるよ見える

あなたの愛を感じるよ感じる

見えない時は寂しくて

泣きたくなる

苦しくて逃げる

だけど

ほらやっぱり分かる

あなたの優しいKissと抱擁で

あなたの優しく熱い愛で

私は満たされ

至福の時を迎える

永遠の愛は

静かに優しく

時に熱く...

どんな試練も

どんな過ちも

どんな想いもを超える

強い絆

感じるよ

エンドレスラブ



朝一番

おはようってあなたが笑顔で言う

おはようって私が笑顔で返す

なんだか気分が良くなるの

今日はなんだか良い事ありそう

だって気分がいいんだもん

朝一番に大好きな人の笑顔

嬉しい

今日も一日頑張れる

今日も一日頑張ってるね

君が一番

君と僕はもう長い付き合いだ

君と気まずくなる時もあるし

気持ちが乗らない時もある

ドキドキもちょっとご無沙汰だ

なんとなく周りを見渡して

ちょっと君じゃないコと話してみる

でも気付くんだ

上辺だけの話

作り笑顔

違う

僕が欲しいのは

君と僕だけの会話

想いが見える言葉

君の心からの笑顔

時々ぶつかる事もあるけれど

僕達が交わした時間は本物だから

やっぱり君がいい

君が僕の一番だ

人肌

少し肌寒くなった朝

目が覚めると

隣に変わらぬあなた

寒いから少し寄り添うと

あたりまえのように

眠ったまま抱き寄せる

ぬくぬくとあたたかい

あなたの肌から伝わる体温

ホッと

ホット

ハートまであたたかい

あなたのぬくもりは

いつも手の届くところにある

あたりまえだけど

あたりまえの優しさ

大切にしよう

君のいる景色

後何年君を眺めていただけるだろう...

キッチンで

庭で

リビングで

ベッドで

後何年君と歩けるだろう...

公園で

スーパーで

旅先で

どの場面にもあたりまえのように

君は溶け込んでいて

君なしの景色は想像つかない

でもいつか君のない景色になるかもしれない

だからこの目が見える限り

少しの君も見逃さないよう

君を見ていよう

君のいる景色は

僕の生きてる証しだ

永遠を信じて

365日

愛を消さないように

365日

二人して

365日

向き合って

365日

ときめいて

365日

笑い合い

365日

ラブラブする

なんて...



無理

だって

私達は二人して生きてるんだもの

時には

怒り

時には

苦しみ

時には

傷つけ合い

時には

涙する

だけど

あなたが

繋いだ手を離さないから

私は

歩く

あなたと

向き合うのではなく

あなたと

前を向いて

あなたと私の重なった道を

険しくとも辛くとも

共に歩く

それが私の選んだ道

それが私の生きる道

この道の先に何があるかは分からない

だけど私は信じてる

きつとこの先の向こうには

あなたと私の永遠の愛がある事を

あなたとなら必ず

辿りつける

そう信じてる

恋するキミの代弁者～夫婦編～

<http://p.booklog.jp/book/86486>

著者：キミイ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kimiynoheya/profile>

AKHTAR AHMAD 表紙Photo

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/86486>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/86486>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ